

阿弥陀堂・御影堂のお煤払（おすすはらい）

12月20日早朝5時30分からのお晨朝に続き、理事会メンバー有志で参加してきました。蓮如さまの時代から500年以上続く行事で総勢900名がお集まりになりました。

ご門主さまが長さ4mの「お煤ほうき」で宮殿(くうでん)、厨子(ずし)を払われた後、参加者が「煤竹(すすだけ)」で畳を叩き、大きなうちわを使ってお堂からホコリを扇ぎだします。この1年毎日全国各地から参拝された方々が、少しずつ残された貴重な「すす」なので、「すす」ではなく「おすす」と言われるとのお話を伺った後で作業につきました。お堂の端から廊下まで3回も中腰で進むと腿はパンパン、煤竹を叩く握力がなくなっていますが、体も心も温かくなっています。

今年はじめて、一般公募で参加された100名と一緒に、終了後にお斎をいただき心地好い疲労感とともに帰路につきました。

